
**平成19年度
船の科学館事業年報**

財団法人 日本海事科学振興財団

船の科学館からのメッセージ	2
沿革	3
施設概要	4
展示	6
展示改装	13
企画展示	14
普及啓蒙事業 体験学習 セミナー 連携事業 その他催事	17
共催・後援・協力事業	32
ボランティア活動	35
社会教育施設などへの協力	40
博物館相互の連携活動	41
視察等来館者	42
資料 資料の収集 管理システム 資料の公開	43
出版	44
施設	49

船の科学館からのメッセージ

四面を海にかこまれた日本は、古来、海を利用し、海に資源を求めて海洋国として発展してきました。今日、わが国が世界の中で重要な役割を果たしているのも、海運・造船をはじめとする様々な海事諸産業の発達が基盤になっているといえるでしょう。

今後、日本が経済だけでなく文化的にもさらなる飛躍を遂げ、世界に貢献するためには〈海洋〉が一層重要になります。

「海に守られた日本」から「海を守る日本」へ、未来へ向けた、〈海洋〉への取り組みが始まっている現在、当館は、海と船の文化をテーマに〈海洋〉への理解と認識を深める多彩な活動を積極的に展開してまいります。



年月	事項
1963. 9	財団法人日本船舶振興会は、モーターボート競走の収益を世のため人のために生かすための事業として、海事科学の普及を目的とした博物館建設の基本方針を決定
1965. 4	海事博物館（仮称）建設事業計画を策定、運輸大臣の認可を得る
1967. 4	財団法人日本船舶振興会は博物館事業の実施、運営団体として財団法人日本海事科学振興財団を設立
1968. 3	博物館の名称を「船の科学館」と定め、建設用地を東京港13号地その1埋立地に内定、建設事業計画作成を実施
1970. 12	建設工事に着手
1971. 11	展示工事に着手
1974. 7	「船の科学館」一般公開（海の記念日に海事全般にわたる総合的、近代的科学館として公開）
1978. 7	“宇宙-人類の夢と希望”のテーマのもとに、船の科学館を中心に宇宙科学博覧会開催、551万人余の見学者を迎える（期間：1978. 7. 16～1979. 1. 15）
1979. 3	国際児童年に協賛し、宇宙博再開、561万人余の見学者を迎える（期間：1979. 3. 24～1979. 9. 2）
5	船の科学館施設として元南極観測船“宗谷”一般公開
1980. 7	二式大型飛行艇一般公開
1985. 6	3階展示場改装
1986. 12	2階展示場改装
1987. 12	1階展示場改装
1988. 7	6階展示場改装、元青函連絡船“羊蹄丸”取得
1989. 3	「マリンシアター」一般公開、地階展示場改装
1992. 3	「Q&Aシアター」一般公開
5	イタリア・ジェノヴァ市で開催された「国際船と海の博覧会」に日本政府館として“羊蹄丸”出展（期間：1992. 5. 15～1992. 8. 15）
1996. 3	「フローティングバビリオン羊蹄丸」一般公開
1997. 7	「和船コーナー」「マリタイムサロウン」一般公開
1999. 3	「船の科学館ホームページ」一般公開
2001. 3	「海の安全コーナー」展示改装
5	参加体験学習専用棧橋設置
12	モニュメント用大型スクリーンプロペラ設置
2002. 4	「読書ルーム」一般公開
2003. 3	体験学習用施設「ボートハウス」改装
12	二式大型飛行艇、海上自衛隊鹿屋航空基地史料館へ譲渡
2004. 12	「海をひらくコーナー」展示改装
2005. 4	“羊蹄丸”棧橋ボードデッキ改修
2005. 11	“宗谷”保存整備工事に着手
2006. 1	“宗谷”保存整備追加工事に着手
2007. 7	「にっぽんの海コーナー」一般公開

船の科学館は、海と船の文化をテーマに創られた海洋博物館です。
 貴重な実物資料や模型をはじめ、美しい映像と音響で描かれるシアターや参加型のアトラクションなどを取り入れた展示で、海と船の過去・現在・未来を楽しみながら学ぶことができます。

B1階 (B1)

① 海をひらく／
アクアビジョン
Marine Development /
Aquavision

⑦ 船をつくる
Shipbuilding

⑥ 船をうごかす
Ship Propulsion

⑤ 船のしくみ
Ship Design

1階 (1F)

④ 船のあゆみ
Ship History

③ シンボルホール
Symbol Hall

② オーロラホール
(多目的ホール)
Aurora Hall
(multi-purpose hall)

2階 (2F)

⑮ 海に親しむ
Ocean Recreation

⑭ Q&Aシアター
Q&A Theater

⑬ 海をまもる(海上自衛隊／旧日本海軍)
Defending the Oceans
(Maritime Self-Defense Forces / Former Imperial Japanese Navy)

⑫ 海の安全(海上保安庁)
Maritime Safety(Japan Coast Guard)

⑪ 船と魚
Ships and Fishing

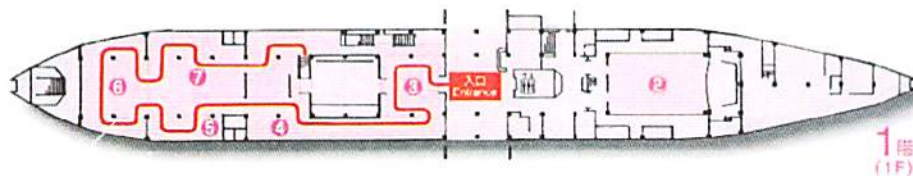
⑩ につぼんの海
The Seas and Oceans of Japan

⑨ 船と港
Ships and Seaports

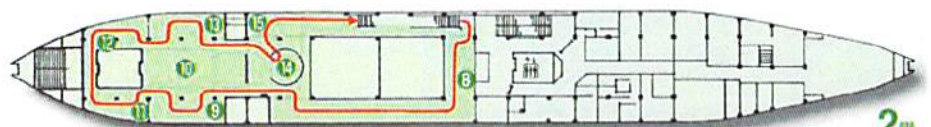
⑧ 船がはこぶ
Maritime Transportation



B1階
(B1)



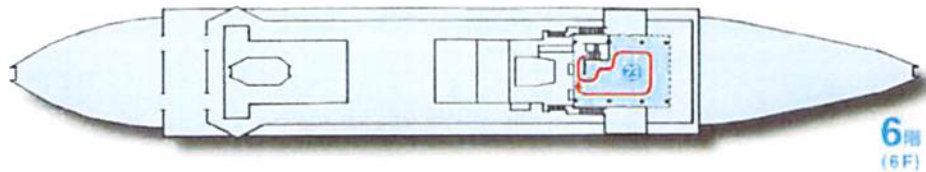
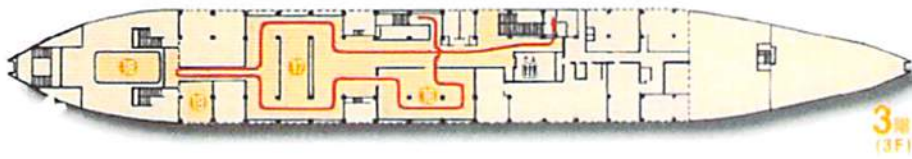
1階
(1F)



2階
(2F)



- 3階 (3F)**
 - ⑬ 読書ルーム
Reading Room
 - ⑭ ラジコン船コーナー
Radio-Controlled Boat Section
 - ⑮ 和船コーナー
Japanese Boats
 - ⑯ マリタイムサルーン/
企画展示室
Maritime Saloon /
Special event exhibition hall
- 6階 (6F)**
 - ⑳ 海をわたる(操舵室) /
操船シミュレーション
Sailing the Seas (steering house) /
Ship maneuvering simulation
- 展望塔 (Observation Tower)**
 - ㉑ 展望室
Observatory



エレベーター
Elevator



展望室2階
(Observatory 2F)



展望室1階
(Observatory 1F)

展望塔
(Observation Tower)

常設展示

本館 1F/B1F

●シンボル ホール

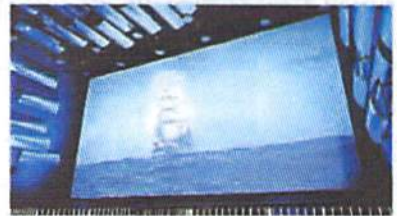
私たちは海と船を通じて文化・経済の発展を遂げております。今後も勿論、海と船は深い絆によって文化・経済の発展に寄与していきます。正面は広く資源を求める意味で、七つの海を表す世界地図の大壁面、船によって結ばれ発展する世界の姿を電光地図で紹介し、中央には日本独自の造船技術によって建造された江戸時代の弁才船の模型を展示しています。



●マリン シアター

ここは、海と船と人との交わりを大型映像で楽しんでいただくコーナーです。快適なリズムや、流麗なメロディーをバックに、詩的に凝縮された美しく味わいある映像が大型マルチ映像装置により劇的効果で映しだされます。

(スクリーン：縦6.4m×横12.8m)



●船のあゆみ

船は人類の歴史とともに発達してきました。ここでは、丸木船から、帆船、汽船そして超電導電磁推進船まで、船の発達の歴史を紹介しています。



●船のしくみ

船の全体像と基本知識を紹介するコーナーです。船の大きさ・能力などを表す基本的な事項をはじめ、船型、船図、抵抗、推進、動揺、復元性、構造、強度などに関する船の基本原理を、模型・パネル・実験水槽などで紹介しています。



●船をうごかす

船を進める装置として人類は機関を発明しました。ここでは、日本の技術で開発された船用大型ディーゼル機関の実験機をはじめ、各種の機関やスクリーブローパーなどを紹介しています。

●船をつくる

船の建造の工程を見せる造船所のパノラマ模型、21,000重量トンの貨物船の実物ブロック、鋼材の実物サンプル、自動切断機の実物などを展示し、設計図に基いて1枚の鉄板から船の出来あがるまでの造船の姿を紹介しています。



●海をひらく

地球の表面積の70パーセントを占める海と人類との共存を考えていくことが、これからの海洋開発の大きなテーマといえます。ここでは海底、海中、海上における海洋開発の姿をジオラマ模型で紹介するとともに、潜水器具の発達の歴史について展示紹介しています。



本館 2F

●船がはこぶ

日本経済の発展は海運なしでは考えられません。私たちの生活を支えて全世界で活躍する船が、何を運びどのように私たちの生活と結びついているかを紹介しています。

●船と港

東京港の発達の様子や港を中心とした物の動き、そこで活躍する各種船舶等を紹介しています。

●にっぽんの海《新展示コーナー》

私たち日本人は古来、海から多くの恵みを受けながら暮らしてきました。しかし近年、海からの恵みをめぐって国際的に様々な問題が発生しています。このコーナーでは、わが国の海はどこまでかを知り、そこで起きている問題と海を守る活動について紹介しています。

●船と魚

日本は水産資源をもとめて、世界のあらゆる海に進出しています。ここでは、日本の漁業の対象となる魚種と漁船や漁法等を紹介しています。

●海の安全

四面を海に囲まれ、その海を利用して発展する日本にとって、船舶航行の安全は欠かせません。このために海上交通秩序の維持、海難防止、災害救助、海洋汚染の防止などに活躍する海上保安庁の業務をパネルや模型のほかコンピュータゲームを使って紹介します。

●海をまもる

旧海軍の艦艇をはじめ、海のももりに日夜活躍する、海上自衛隊と所属艦艇の役割を紹介しています。

また、潜水艦コーナーでは、潜水のしくみを学んだり、潜望鏡の擬似体験もできます。

●Q&A シアター

船の知識をたしかめるため、船舶や客船等の質問が用意されています。ゲーム感覚で楽しく復習できる参加型のコーナーです。

●海にしたしむ

海浜、海上、海中など海のあらゆる所で行われているマリンスポーツやマリンスポーツを紹介し、人間と海との接点をさらに近いものにしていきます。



本館 3F

●和船コーナー

江戸時代の経済を飛躍的に発展させた海運の主力である弁才船を中心に、古代から中世、近世へと、その時代の経済的・風土条件に対応して独自に発達した和船の歴史を展示紹介しています。



●マリタイム サルーン

休憩コーナーの他、船の科学館が開催する各種体験教室や企画展の会場にも使われています。



●ラジコン船コーナー

客船や貨物船、巡視船などの模型船を浮かべて、船長になった気分でラジコン船の操船を楽しむことができます。
(有料)



本館 6F

●海をわたる

6万トン級の客船を模した船の科学館の6Fには、実船と同じように、ブリッジを再現しました。ここには、自分で操船模擬体験のできる操船シミュレーションや各種航海機器などを展示紹介しています。



展望室 1F/2F

●展望室

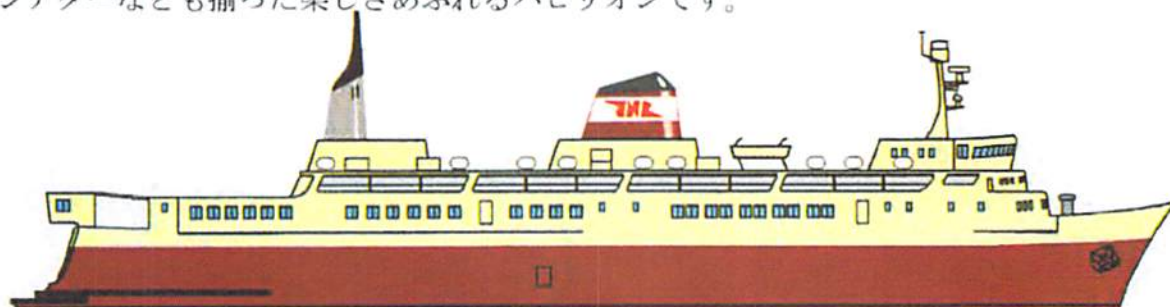
高さ70mの展望室からは、東京港内を行き来するさまざまな船はもちろんのこと、360度の視界で東京港の全貌と臨海副都心と大東京の街並みを見渡すことができます。



元青函連絡船“羊蹄丸”

明治41年3月、北海道と本州を結ぶ鉄道連絡航路として開通した国鉄青函航路は、昭和63年3月青函トンネルの完成に伴ない80年の長い歴史を閉じました。“羊蹄丸”はその連絡航路に昭和40年に就航して以来22年7ヵ月にわたって大役を果たし昭和63年3月13日、最後の上り旅客便でその任務を終了しました。

その後、船の科学館前水面において一般公開となったのです。船内には、海をテーマとした「シー&シップワールド」や昭和30年代の青森駅の様子を体感できる「青函ワールド」、シアターなども揃った楽しさあふれるパビリオンです。



総トン数：8,311.48^t 全長：132.0m
幅（型）：17.90m 用途：客載・車両渡船 旅客人数：1,200人
車両積載数：48両 所要時間（青森～函館）：約3時間50分
就航：昭和40年（1965）8月5日
終航：昭和63年（1988）3月13日

●シー&シップワールド

フローティングパビリオン羊蹄丸の見学導入部がシー&シップワールドです。ここでは、人と海と船との関わりをテーマに、楽しく、分かりやすく展示を構成。展示空間全体が海と船の壮大なロマンと冒険や、神秘に満ちた世界を演出する体感ゾーンとなっています。



●青函ワールド

“羊蹄丸”とともに記憶に残る青函のイメージをホール全体に立体的に構成し、海と船と人間が織りなす凝縮されたドラマに、見学者が体感的に参加できるのが「青函ワールド」です。青森駅前の「朝市」と「青森駅待合室」、貨車を搭載して出航する「青函連絡船」、3つの心象風景を、霧のたちこめる冬の朝の情景の中にダイナミックに構成しています。



●“羊蹄丸”のシアター

“羊蹄丸”のシアターでは、青函連絡船の80年の歴史を、貴重な映像で紹介する「青函連絡船～栄光の航跡～」を上映しています。



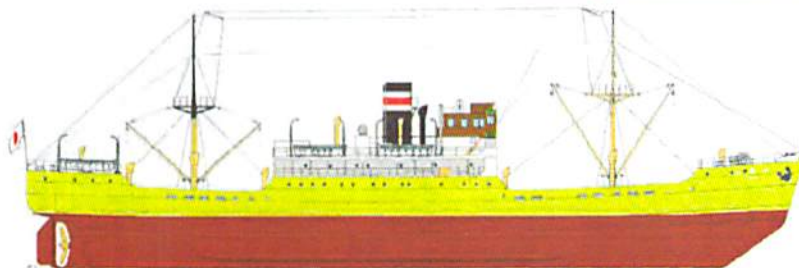
屋外展示物

●初代南極観測船“宗谷”

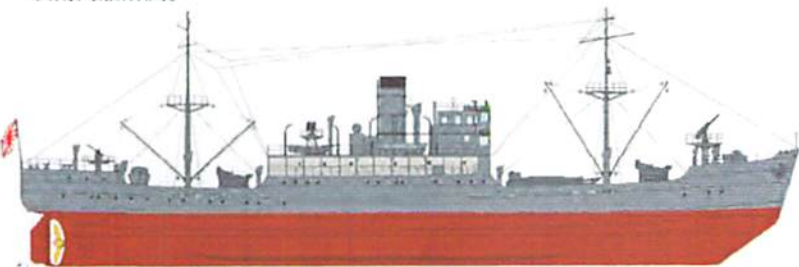
“宗谷”は昭和13年耐氷型貨物船として建造され、太平洋戦争を経験。その後は引揚げ船、灯台補給船となり、昭和31年11月からは日本初の南極観測船として昭和37年4月まで、6次にわたる南極観測に活躍しました。

その後、昭和53年に退役するまで海上保安庁の巡視船として活躍、昭和54年5月から、船の科学館前に係留され保存展示されています。

総トン数：2,736.1トン
全長：83.7m
速力(最大)：12.3ノット
航続距離：16,400海里
(第4次観測当時)



昭和13年(1938)6月10日竣工、ロイド船級100A型耐氷構造の貨物船辰南商船所屬。



昭和15年(1940)6月4日改装工事完了、測量業務を主体とした特務艦日本海軍所屬。



昭和25年(1950)4月1日改装工事完了、灯台補給船、海上保安庁所屬。

耐氷型貨物船“地領丸”



特務艦“宗谷”



灯台補給船“宗谷”



●大瀬崎灯台

大瀬崎灯台は、長崎県五島列島の最南端の大瀬崎に建てられた灯台です。明治12年、白色円形鉄造の灯台として初点灯し、灯器は第1等回転レンズ、光達距離22.5海里（約40km）、光力67,500燭光と当時最大級を誇りました。

以来、約1世紀にわたり光を灯し続けて来ましたが、昭和47年白色円形コンクリート製の新しい灯台が完成したのに伴い、役割を終えて解体されました。

この灯台は、その旧大瀬崎灯台の灯ろう部（上部の灯器を取めたカゴの部分）の保存を目的として、北海道の稚内灯台の第3等回転レンズ及び回転機械を用いて建てられたものです。



●安乗崎灯台

伊勢湾への入口に位置する三重県安乗崎は、古来より交通の要衝にもかかわらず暗礁の多いことから江戸時代前期には灯明台が建てられ、廻船問屋の共同出資で維持管理されてきました。

安乗崎灯台はこの灯明台に替えて明治5年に、白地八角形の本造灯台として完成し、翌年に初点灯したものです。当時の灯器は、4等回転レンズ、光達距離15海里（約28km）、光力4,000燭光でした。

その後、昭和23年に新灯台が建造されたのに伴い、旧安乗崎灯台は歴史記念物として保存されることになり、東京の浜離宮公園、横浜の第三管区海上保安本部をへて、昭和48年から船の科学館で保存展示されています。



●東京灯船の灯器

船の上に設置された灯台で、昭和22年、東京港の入口を示すために使われていたものです。昭和46年に東京灯標が完成したのを機に引退し、現在灯器灯柱のみが船の科学館で保存展示されています。なお、日本には東京灯船のほか、本牧灯船、函館灯船の2隻の灯船がありました。



東京灯船



●海底ハウス“歩号一世”

昭和43年に民間の手で造られ、静岡県沼津市内浦の三津天然水族館（三津シーパラダイス）の沖合い水深8mに設置され、3年3ヵ月にわたる居住実験が行われた海底ハウスです。材質：鋼鉄製 全長：7.0m 高さ：2.5m 直径：3.0m



●半没水型双胴実験船“マリンエース”

昭和52年10月に完成した、日本で初めての半没水型双胴実験船です。半没水型双胴船は、水面下の魚雷型をした没水部（ローハル）と水面上の上部構造物を、流線形の断面を持つ結合部材（ストラッド）で結合したユニークな形状の船で、従来型の船と比較して造波抵抗が小さく、高速性に優れています。

さらに、自動制御のフィンスタビライザーを装備しているので、波浪中での揺れが極めて少なく、また、双胴船であるため同一平面上に広い作業スペースが確保できるなど大きな特徴を持ち、観測船や客船に採用されています。



総トン数：29トン 全長：12.35m 全幅：6.50m
深さ：2.70m 最大速力：18ノット 乗員：最大20人

●潜水艇“たんかい”

大陸棚海域における潜水調査を目的に建造された小型潜水艇です。この船の特徴は、球体の船体の下半分がメタクリル樹脂製の透明耐圧殻で、広い視野での調査・観測ができることです。



排水量：5.6トン 最大幅：2.9m 高さ：2.94m
推進方式：ウォータージェット 最大潜水深度：200m
最大潜水時間：48時間 定員：2人

●超電導電磁推進装置

世界初の超電導電磁推進船“ヤマト-1”に搭載された推進装置です。推進の原理は、「フレミングの左手の法則」を応用したもので、超電導電磁石が作り出す強力な磁場を利用して、海水を後方へ勢いよく押し出す力で船を進めます。



●大型スクリーブローペラ

5万トンクラスの大型船に使われる大型スクリーブローペラです。4翼一体型、直径が6.0m、重量は15.3トンで材質はアルミニウムとニッケルを含む銅合金でできています。



●戦艦“陸奥”主砲

日本海軍に所属した戦艦“陸奥”の主砲です。

●銅像“TOMORROW”

船の科学館初代館長・笹川良一の銅像です。
(J. Seward Johnson, Jr. 作)



船の科学館では、最新の海事情報を伝えるため、館内展示の更新並びに展示解説パネルの情報更新を定期的に行っています。

《新展示コーナー「にっぽんの海」》

わが国は四面を海に囲まれ、古来より海に資源を求め、また船による輸送の道として海より多大の恩恵を受けてきました。しかし、近年は海洋環境の悪化、海洋資源の減少、近隣諸国との摩擦など、わが国をめぐる海にさまざまな問題が生じています。こうした状況に対応するため、わが国も「海洋基本法」を策定し総合的な海洋政策を進めていこうとの機運が高まってきました。

そこで、平成19年度は本館2階展示場「船と港」コーナーを改装し、領海や排他的経済水域（EEZ）、大陸棚や領有する島嶼などについて解説・紹介する「にっぽんの海」コーナーを併設しました。



▲解説パネル



▲「にっぽんの海」コーナー全体風景



▲立体海底地図



▲映像資料も上映

船の科学館は、海事関係資料を中心に、さまざまな視点から「海」や「船」について紹介する企画展を開催しました。

名 称：企画展「うなぎの不思議」

開催期間：平成19年8月4日(土)～9月30日(日)

開催場所：船の科学館 本館3階 マリタイムサルーン

主 催：船の科学館

協 力：東京大学海洋研究所、独立行政法人海洋研究開発機構、
独立行政法人水産総合研究センター、東京大学総合研究博物館、
独立行政法人水産総合研究センター志布志栽培漁業センター、
三重県教育委員会、指宿市、海の博物館、神宮徴古館農業館、東京国立博物館
東京都江戸東京博物館、品川区立品川歴史館、
財団法人宮崎県内水面振興センター、うなぎ百撰会、日本養殖新聞、
日本養鰻漁業協同組合連合会、丸榛吉田うなぎ漁業協同組合、瀬戸内海放送、
株式会社いらご研究所、清水水産株式会社、鰻 渋谷松川、登亭 銀座八丁目店
どぜう 飯田屋、代々木 澤田屋、鰻 かねてつ、うなぎ 池袋本店、塚本勝巳、
青山潤、亀井哲也、M. J. ミラー、清水魁
※敬省略、順不同

開催内容

うなぎは蒲焼等の食料として広く親しまれており、古くは4000年前の縄文貝塚からもうなぎの骨が出土している事や、江戸時代の絵図にも登場している事から歴史文化的にも日本人と非常に関係が深い生き物と言えます。しかし、古くから親しまれているにも関わらず、その産卵場所や生態がまだ解明されていません。そこで、これらうなぎ研究の課題等に対して興味・感心を喚起することにより、海洋等にも目を向けていただく一助として開催しました。

○展示内容

- ①ウナギの歴史と有名人
- ②江戸の絵図に見るウナギ
- ③水産図解に見る漁法と漁具
- ④ウナギ養殖ABC・・・
- ⑤ウナギの栄養と効用
- ⑥船の科学館から行けるウナギ屋マップ
- ⑦ウナギ何でも情報局
- ⑧世界のウナギ
- ⑨ウナギの赤ちゃん、大変身！
- ⑩ウナギを追って1世紀
- ⑪発見への2つの道
- ⑫太平洋の旅
- ⑬海へ還るために
- ⑭大西洋の旅
- ⑮タマゴ発見最前線！
- ⑯解き明かされる謎～そして～



▲同企画展ポスター

○上映映像

文章や絵図では伝わらない情報の補完として、提供いただいた下記映像を企画展会場内で上映しました。

- ①うなぎのさばき方 約10分
(株式会社野田屋調理市紹介所)
- ②青鰻漁の様子 約20分
(株式会社清水水産)
- ③テレメンタリーうなぎ丸の航海 約30分
(瀬戸内海放送)

○模型・実物の展示

- ①天然アオ鰻の実物展示 (株清水水産)
- ②クロコ (うなぎの稚魚) の実物展示
(亀井氏、宮崎県内水面振興センター)
- ③うなぎ漁漁具一式 (海の博物館)
- ④うなぎ皮製小銭入れ等 (神宮徴古館)
- ⑤うなぎ発生過程液浸サンプル
(独立行政法人水産総合研究センター、
独立行政法人水産総合研究センター志布志栽培漁業センター)
- ⑥ポスター作画の安川氏の作品展示

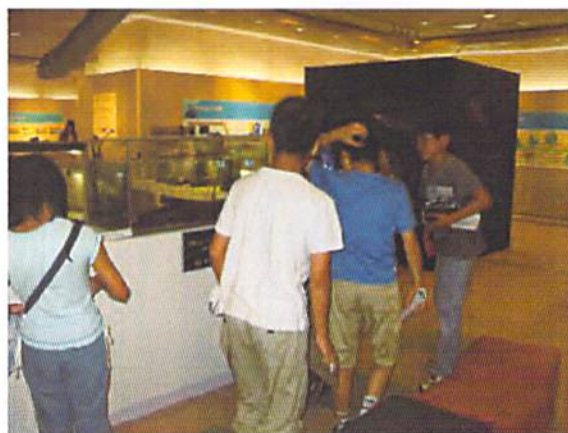
入場者数：64,736名



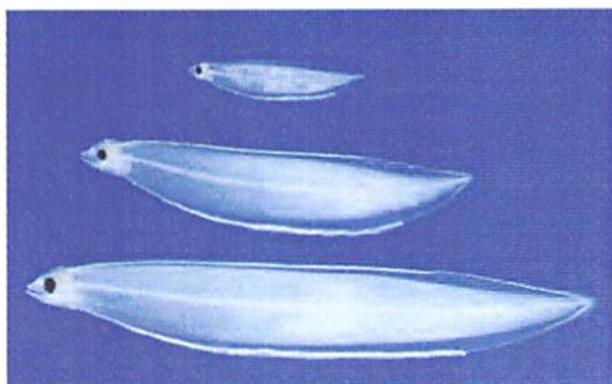
▲うなぎ漁の様子を再現



▲うなぎの稚魚を展示



▲展示会場の様子



▲うなぎの稚魚“レプトセファルス”



▲展示会場の様子

名 称：海と船のカレンダー展
開催期間：平成20年1月2日(水)～20日(日)
開催場所：船の科学館 本館3階 マリタイムサルーン
主 催：船の科学館
協 力：東日本フェリー株式会社
 郵船クルーズ株式会社
 太平洋フェリー株式会社、他
 ※敬称略、順不同

開催内容

海や船の絵柄が入ったカレンダー58点を各関係機関、企業等にご提供いただき、展示紹介しました。

入場者数：8,633名



▲展示会場

名 称：青函連絡船100周年記念催事
 展示会「写真と映像で綴る青函連絡船の歴史」
開催期間：平成20年3月1日(土)～30日(日)
開催場所：青函連絡船「羊蹄丸」エントランス
主 催：船の科学館
開催内容

明治、大正、昭和の各時代の連絡船やエピソードを、写真と映像で解説。“洞爺丸”海難事故やその一ヶ月前に昭和天皇が東北、北海道巡幸の際に青森から函館まで奇しくも“洞爺丸”を御召船として御乗船された時の様子や“羊蹄丸”の起工から次第に船の姿を形作り、そして進水までの工程を写真で綴りました。また、青函連絡船第一船の“比羅夫丸”の珍しい図面や最終便“羊蹄丸”ログブックなどの資料も併せて公開しました。

入場者数：6,646名



▲同展ポスター



▲同展示会ポスター



▲展示会場の様子

海から生まれ、海に糧を求め、海を渡って交流してきた人類。

特に、四面を海に囲まれた日本にとって、船はなくてはならない存在です。幾多の恩恵をもたらす「海」。そして海を渡る「船」の長い歴史と文化は、ともに次代へ引き継いでゆくべき貴重な財産です。21世紀を迎え、海の大切さと、船と人間の新しい結びつきを考える。この理念に基いて、より多くの人々に「海」と「船」への関心を高めてもらうために、船の科学館では各種、海事科学知識の普及啓蒙事業を開催しました。

体験学習

名 称：エンジン付ゴムボート乗船体験教室

開催場所：宗谷・羊蹄丸中間水域

開催日時及び参加者数：

第1回	平成19年	5月20日(日)	106名
第2回	"	6月17日(日)	122名
第3回	"	10月21日(日)	129名

開催内容

エンジン付ゴムボートの操船を通して船への興味と関心を喚起するとともに、船の特性や海上での交通ルールなど、実体験の中から学んでもらう教室を開催しました。

各ボートには海技免許を持ったインストラクターが同乗し、指導を行いました。ハンドルの操作は参加者自身に行ってもらいました。

(自己操縦適用除外許可事業)

参加者数：357名



▲乗船体験風景



▲多くの親子が参加

名 称：シーカヤック体験乗船教室

開催場所：船の科学館シーサイドプール

開催日時及び参加者数

第1回	平成19年	5月27日(日)	83名
第2回	"	10月14日(日)	124名

開催内容

シーカヤックの体験乗船を通して、海と船への興味と関心を喚起するとともに、浮力や復元性など、実体験の中から学んでもらう教室を開催しました。

指導員による乗船前のライフジャケット装着点検、乗り降りの手順、操船方法などのレクチャーを実施後、各自カヤックに乗船、設定コースにて体験乗船してもらいました。

参加者数：207名



▲レクチャー風景



▲シーカヤック体験乗船風景

名 称：海洋教室「海のいろいろ体験教室」
 開催場所：“羊蹄丸”船尾参加体験学習用棧橋
 及び“羊蹄丸”船内

開催日時及び参加者数：

第1回	平成19年	6月3日(日)	16名
第2回	"	9月2日(日)	23名
第3回	"	10月7日(日)	23名

開催内容

東京港で見ることのできる魚やクラゲ、プランクトンなどの観察や東京港の海水の透明度・温度・塩分濃度の測定などの体験を通して、広く一般の人々の海洋への興味と関心の喚起及び海事科学知識の普及を目的として開催しました。

当館制作のテキスト（「海洋教室体験学習ハンドブック」や「東京港生きものハンドブック」）を教材として、参加者の年齢に応じた内容での海洋観測や生物観察を実施しました。

参加者数：62名



▲多くの親子が参加

名 称：シップ・ウォッチング in 東京港

開催場所：東京港内

開催日時及び参加者数：

第1回	平成19年	7月29日(日)	13:30~15:00	246名
第2回	"	8月5日(日)	"	304名
第3回	"	8月22日(水)	"	326名
第4回	"	8月29日(水)	"	335名
第5回	"	10月28日(日)	15:45~15:15	185名
第6回	"	12月8日(日)	"	179名

主催：船の科学館

協力：東京海上保安部

警視庁東京水上警察署

東京消防庁臨港消防署

東京税関

※敬称略、順不同

開催内容

一般の方々を対象に、船や港への関心と興味を高めてもらうことを目的として全6回にわたり開催しました。

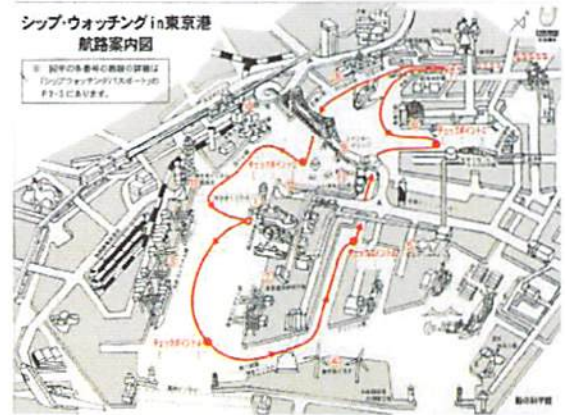
第1回から第4回に東京都観光汽船株式会社の海上バス海舟を、第5回および第6回に財団法人東京都公園協会の“こすもす”をそれぞれチャーターして、青海海上バス乗り場（船の科学館前）より約90分間の東京港内クルーズとして実施いたしました。



▲海上よりコンテナ船を見学する様子

第1回・第2回は「東京の港を船で探検しよう!」、第3回・第4回は「働く船を間近で見よう!」、第5回・第6回は「サンセット・シップ・ウォッチング 東京港の夕日を見よう!」をテーマに実施し、24時間動き続ける港や船の様子を間近に見学していただきました。なお、本年は台風接近のため3回分の日程変更を余儀なくされましたが、大きな混乱もなく無事に実施することができました。

参加者数：1,575名



▲第1回～第4回航路図



▲乗船の様子



▲消防艇の放水



▲レインボーブリッジに沈む夕日



とても空しかったので、また来年も一緒に行きたいので、船の新聞を作りました。ほかには、「海の友」に載りました!

船 黒 II



午前中に見た船です、
書きも追加したので

▲(上・下) 参加者からのお便り

名 称：夏休み！海と船の工作実験ひろば ～わたしたちの海を守りましょう！～

開催場所：船の科学館 本館1階 オーロラホール

開催日時：平成19年8月1日（水）～31日（金）

主 催：船の科学館

協 力：独立行政法人海洋研究開発機構

社団法人日本船舶海洋工学会

日清食品株式会社

※敬省略、順不同

開催内容

① ペーパークラフトの工作

参加者がさまざまな船やその他海に関する乗り物、海の生き物から選んで作れるコーナーを設置しました。

○ペーパーモデル「青函連絡船“羊蹄丸”」

参加者数：176名

○ペーパーモデル“レインボー”

参加者数：407名

○ペーパーモデル「クルーザー」

参加者数：322名

○ペーパーモデル「ジェットフォイル」

参加者数：339名

○ペーパーモデル「弁才船“住吉丸”」

参加者数：345名

○ペーパーモデル「海賊船」

参加者数：970名

○ペーパーモデル「二式大型飛行艇」

参加者数：1,002名

○ペーパーモデル「ジェット機“ガルフV”」

参加者数：976名

○ディスクシップ「海上保安庁巡視船」

参加者数：45名

○ディスクシップ「南極観測船」

参加者数：8名

○ディスクシップ「潜水調査船」

参加者数：48名

○ペーパーフィギュア～ナンキョクオットセイ～

参加者数：297名

○ペーパーフィギュア～チンストラップペンギン～

参加者数：205名

② お絵かきコーナー

参加者が海の風景や海に生息する生き物たちを砂絵、ちぎり絵で自由に表現できるコーナーを設置しました。

○砂絵 参加者数：2,525名

○ちぎり絵 参加者数：237名



▲同会場の様子



▲ペーパークラフト工作の様子



▲砂絵

③ ゴム動力の船

木（バルサ材）を使って、実際に水上を走るゴム動力の船の工作教室のコーナーを設置し、開催しました。

参加者数：654名

また、同コーナーにおきまして、8月27日（月）社団法人日本船舶海洋工学会の協力による「船のなんだろう？10のクイズ」を横浜国立大学工学部准教授 村井基彦氏の指導で開催しました。

参加者数：45名



▲ ゴム動力の船

▼ ふわふわフェルトのクジラ

④ ふわふわフェルトのクジラ

羊毛を使って、クジラが作れる教室のコーナーを設置し、開催しました。

参加者数：505名

⑤ ボトルシップの工作教室

東日本ボトルシップ愛好会会長を講師に迎え、軍艦「観光丸」のボトルシップの工作教室開催しました。

参加者数：33名



⑥ 幼児コーナー

工作や手芸ができない幼児が遊べる、地球を模した球型クッションコーナーを設置しました。

⑦ 実験教室

海と船に関する実験を見て、科学を学べるコーナーを設置し、開催しました。

また、8月26日から31日までの6日間、海洋研究開発機構（JAMSTEC）及び日清食品株式会社の協力をいただき、カップメン容器の水圧による形状変化を観察するため特殊な装置を使った水圧実験を開催しました。

- 『実験クイズ「なぜ浮くのかな？」』
- 『トウケン先生の風の力を見てみよう！』
- 『お風呂魔人の実験5連発』
- 『水圧実験』

参加者数：452名



▲ ボトルシップ工作

▼ 水圧実験教室



⑧ ミスター・シロブチの紙芝居

「主人公が船や海に関するもの」「物語のステージが海」「テーマが海洋汚染問題」の紙芝居を通して、絵と語りで楽しく学べるコーナーを設置し開催しました。

見学者数：190名

参加者数：9,781名

名 称：第4回「夏休み！海鷹丸で海の科学を学ぼう」～君も海洋研究者になろう！～

開催場所：東京湾及び大島沖（使用船舶：東京海洋大学 練習船“海鷹丸”）

開催日時：平成19年8月18日（土）～20日（月）〔2泊3日〕

共 催：船の科学館

東京海洋大学

後 援：東京都教育委員会

江東区教育委員会

品川区教育委員会

港区教育委員会

協 力：日清食品株式会社

※敬省略、順不同

開催内容

本年度は中学生を対象に、海洋全般についての講義、使用船舶“海鷹丸”の最新海洋観測機器やプランクトンネットを使用した体験学習等を通して、海洋や船舶に興味・関心を喚起することを目的として開催しました。

実施項目

- 船の科学館見学及び東京港海洋観測
- 避難訓練（救命胴衣着衣訓練など）
- 船内見学（操舵室、機関室、研究室、操船シミュレーションなど）
- 講義（「海について」「海洋観測ガイダンス」「水圧・光・温度の変化について」「ORI ネットで採れた生物の観察」など）
- 海洋観測（CTDオペレーション、CTD作業、透明度・海水温、NORPAC ネット、ORI ネット）
- 星空観察
- 伊豆大島の港や断層の見学（海上より）
- ロープワーク実習
- 南極の氷観察
- 座談会及び発表会（各グループごとに3日間のまとめ、発表）

参加者数：49名



▲参加者募集用ポスター



▲海洋観測の様子



▲デッキウォッシュ



▲ロープワーク実習

名 称：親子で楽しむ くるみの帆船工作教室
開催場所：青函連絡船“羊蹄丸”アドミラルホール
開催日時：平成19年11月3日（土・祝）

主 催：船の科学館

指 導 者：木造帆船模型同好会 ザ・ロープ会員 浅川英明氏、野上吉彦氏、肥田 純氏
開催内容

木製快速帆船の模型を身近な素材であるくるみの殻や紙などを使って工作し、制作過程や完成作品への興味・愛着から、船や海への興味・関心を高めてもらうことを目的として開催しました。

参加者数：21名



▲完成例



▲制作指導の様子



▲親子で作品完成

名 称：青函連絡船100周年記念催事
3船一斉吹鳴、“羊蹄丸”函館出港及び青森入港模擬

開催場所：青函連絡船“羊蹄丸”ブリッジ

開催日時：平成20年3月7日（金）

主 催：船の科学館

開催内容

最初の青函連絡船“比羅夫丸”が、100年前の明治41年3月7日午前10時に青森港を出航した同時刻に、“摩周丸”“八甲田丸”“羊蹄丸”の3船が一斉に汽笛で長一声を吹鳴して100周年を迎えました。

また、昭和63年3月13日函館発の最終上り便“羊蹄丸”の元船長・鈴木 繁氏をお迎えして、元青函連絡船乗組員の方々のご協力のもと出港時、入港時におけるブリッジ内の船長と各乗組員とのやり取りを、解説を交えて再現しました。この模擬の中で、出港の合図として懐かしいドラの叩き方や、ベットの毛布を四季折々様々な形に作り出す職人技も披露されました。

参加者数：120名



▲元船長と20年前の乗客が再会



▲出港・入港模擬の様子



▲飾り毛布の実演

セミナー

「船の科学館 海・船セミナー2007」

船の科学館では、毎年、海や船にちなんだ様々なテーマでセミナー（講演会）を開催しておりますが、平成19年度は企画展「うなぎの不思議」展関連行事の一環として、様々な立場から見たうなぎの不思議についてのセミナーを全6回開催しました。

名称：うなぎの不思議をきいてみよう

開催主旨

本年度の企画展「うなぎの不思議」展関連行事の一環として、長年うなぎに関わりを持つ各氏を講師に迎え、生態や新たな発見を通して海や魚についての理解を深めていただくことを目的として開催しました。

開催日・演題・講師・参加者数

第1回 平成19年8月5日（日）

「うなぎ四方山話」

うなぎ百撰回 上林武人氏

参加者数：54名

第2回 平成19年8月12日（日）

「夏バテとうなぎ」

東京海洋大学教授 大島敏明氏

参加者数：43名

第3回 平成19年8月26日（日）

「うなぎ研究最前線」

東京大学教授

先端海洋システム研究センター長

塚本勝巳氏

参加者数：83名

第4回 平成19年9月2日（日）

（「うなぎ丸の肌研」著者）

参加者数：55名

第6回 平成19年9月30日（日）

「世界のうなぎ」

東京大学海洋研究所助手

青山潤氏

参加者数：71名

参加者数：362名



▲セミナー告知ポスター



▲塚本勝巳氏



▲亀井哲夫氏

連携事業

「海事関連機関連携事業」

船の科学館では、海事知識の普及啓発を目的として、海事関係諸団体との新たな連携事業に取り組みました。

名 称：帆船模型工作室「夢工房」

開催期間：平成19年4月～平成20年3月の各土・日曜日

開催場所：青函連絡船「羊蹄丸」ギャラリー

連携団体：ザ・ロープ

開催内容

木製帆船模型同好会「ザ・ロープ」との連携事業として、同会会員による実演作業を通して、精密な木製帆船模型の制作方法、使用器具、工程などを広く一般の方々に紹介を行いました。



▲実演作業風景



▲実演作業風景

名 称：帆船模型常設展示

展示場所：青函連絡船「羊蹄丸」ギャラリー

連携団体：ザ・ロープ

展示内容

ザ・ロープ会員制作の帆船模型30隻を中心に展示紹介しました。



▲帆船模型常設展示場

「その他関連機関連携事業」

名 称：「海と船の博物館ネットワーク活動」事業

期 間：平成19年4月1日（日）～平成20年3月31日（月）

事業内容

全国23の博物館、資料館などにおいて、海、船、川、湖、沼に係る企画展を開催し、各地の文化財、調査・研究資料などを通して、海事知識の普及啓蒙を図りました。

併せて、博物館、資料館が収蔵する海事関係収蔵資料のデジタル化を5ヵ年計画の2年度として実施しました。

名 称：お台場「ミュージアムスタンプラリー」

開催期間：平成20年3月1日（土）～3月31日（月）

加 盟 館：船の科学館

東京税関情報ひろば

日本科学未来館

東京みなと館

東京都水の科学館

虹の下水道館

リスピーア

がすてなーに ガスの科学館

ソニー・エクスプローラサイエンス

投信スーパーミュージアム

※敬称略、順不同

主 催：臨海地区博物館連絡会

後 援：臨海副都心まちづくり協議会

協 賛：株式会社ゆりかもめ

東京臨海高速鉄道株式会社

産経新聞社

※敬称略、順不同

開催趣旨

平成13年1月、臨海地区の各博物館の相互協力を図り、協同して事業などを推進するため、各博物館の意見調整などの場として臨海地区博物館連絡会が発足いたしました。

昨年度までに引き続き、同連絡会の共同事業として、春休み期間に臨海地区に来場される青少年を主な対象として、各博物館を巡るスタンプラリーを開催しました。

参加者数：341名



▲事業ポスター

その他催事

名称：ワールドシーワールド ～海と船に親しむ～
開催期間：平成19年5月3日(木)～5月5日(土)
開催場所：船の科学館及び周辺海域
主催：船の科学館
後援：東京都
協力：海上保安庁
東京消防庁
警視庁
財団法人日本海洋レジャー安全・振興協会
社団法人日本船舶海洋工学会
* 敬省略、順不同



▲同事業ポスター

開催内容

海での安全と防災の意識や海と船への興味と関心を高めることを目的として、海上保安庁、警視庁、東京消防庁による水難救助訓練のデモンストレーション、プレジャーボート及びエンジン付ゴムボートの体験乗船教室、小型船舶操縦免許情報コーナー及び海・船実験教室などの複数のイベントで構成する複合型のイベントを開催しました。

- | | |
|-------------------|-----------|
| ①プレジャーボート体験乗船教室 | 参加者数：299名 |
| ②エンジン付ゴムボート体験乗船教室 | 参加者数：669名 |
| ③海・船実験教室 | 参加者数：168名 |

参加者数：8,776名



▲エンジン付ゴムボート体験試乗会



▲海上保安庁PRコーナー



▲水圧実験教室

名 称：君も、一日海上保安官になろう！

開催日時：平成19年5月12日(土)

開催場所：船の科学館及び東京港内

主 催：船の科学館

協 力：海上保安庁第三管区海上保安本部東京海上保安部

開催内容

「海上保安の日」(5月12日)にちなんで、次代を担う子供たちに海上保安業務の重要性を認識してもらうとともに海に興味を持っていただくため、東京海上保安部と連携し実施しました。

当日は天候にも恵まれ、任命式の後、巡視艇“まつなみ”による東京港巡視を行いました。下船後には東京海上保安部のご好意により、一日保安官全員に名前入りの乗船証明書を配布していただき大変好評でした。その後船の科学館本館3階の港内交通管制室に移動し、同室長より港内管制業務についての説明を受けるなど海上保安業務の重要性について体験してもらいました。

参加者数：74名(29名+保護者45名)



▲制服姿で記念撮影



▲“まつなみ”に乗船



▲船内操舵室にて説明



▲港内交通管制室を見学

名 称：お台場海浜公園 de いきもの観察会

開催日時及び参加者数

平成19年7月 8日(日) 15名

” 8月29日(水) 21名

開催場所：お台場海浜公園第三台場付近

主 催：船の科学館

指導協力：東京海洋大学水産生物研究会

開催内容

東京港内で唯一、子供でも安全に直接海や海の生物に触れることのできるお台場海浜公園の砂浜や岩場をフィールドに、生息環境と生物との関係を知ることを目的に開催しました。

指導員による東京港の特徴や生物の観察方法などのレクチャーを受けた後、採捕と観察を行い、最後は生物を海に戻して終了となりました。

参加者数：36名



▲採捕の様子



▲解説の様子

名 称：臨時「海の相談室」

開催期間：平成19年7月21日(土)～29日(日)

開催場所：船の科学館 本館1階 エントランスホール
船の科学館 本館1階 オーロラホール
船の科学館 本館3階 マリタイムサルーン
船の科学館前航海訓練所専用棧橋

主 催：船の科学館

協 力：海上保安庁海洋情報部
海上保安庁第三管区海上保安本部東京海上保安部
財団法人日本水路協会
東京大学生産工学研究所
※敬称略、順不同



▲特殊救難隊の制服で記念撮影

開催内容

海の月間に伴う事業の一環として海上保安庁海洋情報部、財団法人日本水路協会の協力により臨時「海の相談室」を主軸とする催しが、海洋情報業務の普及啓発を図ることを目的として開催されました。また、海上保安庁東京海上保安部及び東京大学生産工学研究所の協力により「海の安全教室」が海難やテロといったことに対する安全対策の現状と研究の普及啓発を図ることを目的として開催されました。

①臨時「海の相談室」

開催日時：7月21日(土)、22日(日)

開催場所：本館エントランスホール

参加者数：149名

内 容

- 日本のいろいろな海域における水温・水質の違いをわかりやすく説明
- 誕生日の潮汐表プリントサービス
- 海関する質問への対応



▲潮汐表プリントサービス

②海図等の展示

開催日時：7月21日(土)～29日(日)

開催場所：本館エントランスホール

参加者数：1,458名

内 容

- 明治から現代までの東京湾測量図
- 伊能忠敬の測量図の複写図



▲埋立地の変遷について説明

③海洋教室

開催日時：7月21日(土)、22日(日)

開催場所：オーロラホール
本館エントランスホールホール

参加者数：25名

内 容

海図に記載されている各種記号やそれがどのように航海に必要なのかを、実際の経験等を基に解説しました。



▲実際に海図を見ながら解説

④測量船“明洋”の一般公開

開催日時：7月28日（土）、29日（日）

開催場所：航海訓練所専用栈橋

参加者数：538名



▲測量船“明洋”

⑤海の安全教室

開催日時：7月21日（土）、22日（日）

開催場所：マリタイムサルーン

参加者数：1,757名

内 容

海上保安庁による展示では救命筏の展示をはじめ救難食料や医療具の配布、子供用特殊救難隊制服を用意しての記念撮影を実施しました。また、東京大学生産工学研究所による展示では音波を画像に変えて海からの侵入者の早期発見を図るシステムが紹介されました。

参加者数：3,927名



▲救命筏の展示



▲救難食料・医療具の配布

名 称：造船所見学会 ～巨大船はこうして造られる～

開催日時：平成19年8月22日（水）

開催場所：三井造船株式会社 千葉事業所

主 催：船の科学館

共 催：社団法人日本船舶海洋工学会

三井造船株式会社

※敬称略、順不同

開催内容

巨大船を造る造船所の設備やLNG船などの見学を通して、造船や海運がどれだけ私たちの生活に関わっているかを知ってもらい、造船や船舶への興味や関心を喚起することを目的に開催しました。

造船所で造る船の種類や船が完成するまでの様子を写真等を使って学習した後、船体ブロック組立等の現場を見学しました。また、クリーンエネルギーとして期待されているナチュラルガスハイドレートを実際に使用して、実験を交えた解説を受けました。

参加者数：32名



▲船体ブロック組立見学の様子



▲LNG船見学の様子

名 称：南極観測船“宗谷”古希祭
開催期間：平成20年2月16日(土)
開催場所：南極観測船“宗谷”船上
祭 主：船の科学館
参 列 者：靖国神社権宮司
“宗谷”進水式支綱切断者
特務艦“宗谷”初代艦長ご子息
南極観測船“宗谷”乗組員
南極観測船“宗谷”観測隊員
国立極地研究所元所長
海上保安庁政策評価広報室長
書籍「奇跡の船 宗谷」執筆者
※敬称略、順不同

山口建史
由井幸子
山田健雄
三田安則
小野延雄
渡邊興亞
中野雅彦
桜林美佐 他

開催内容

昭和13年(1938)2月16日、長崎県の香焼島造船所でソ連通商代表部より発注を受けた、耐氷型貨物船3隻の内の1隻「ボロチャエベツ」の進水式が執り行われました。この船が後の“宗谷”です。以来特務艦や引揚げ船、海上保安庁灯台補給船、さらに昭和31年(1956)から36年(1961)の南極観測船としての活躍など多くの船歴と共に“宗谷”の船名を誇りに継承し、本年2月に古希を迎えました。

多くの国民に親しまれ南極観測事業のシンボルとして、さらに我が国の造船産業遺産として、今日益々その価値を高めている“宗谷”の古希祭を開催しました。

参加者数：104名



▲古希祭の様子



▲南極観測船元乗組員と由井氏

平成19年度、船の科学館では「海」や「船」及び「環境」などをテーマとした各種事業に共催・後援・協力などをし、海事科学知識の普及、啓発に努めました。

名称：平成19年度 東京海洋大学 海王祭
 開催期間：平成19年6月2日(土)、3日(日)
 開催場所：東京海洋大学(越中島キャンパス)
 主催：東京海洋大学 海王祭実行委員会
 協力：船の科学館
 協力内容

(1) 出展

- ボードカービング(ペンギン)工作教室
 参加者数：69名
- 南極観測50周年記念パネル展示
- 過去の工作教室成果物の展示及び今後の
 工作教室の案内
- 船の科学館及び各イベントの紹介
 見学者数：179名

(2) パンフレットへの広告掲載

参加者数：248名



▲工作教室風景

名称：第5回水中映像祭
 開催期間：平成19年6月9日(土)～17日(日)
 開催場所：船の科学館 本館 オーロラホール
 青函連絡船「羊蹄丸」アドミラルホール
 及びマジカルビジョンシアター

主催：水中映像祭運営事務局
 共催：船の科学館
 協力：株式会社ダイブネット
 開催内容

- ①スチール写真の展示
- ②ムービー、スライドショーの上映
- ③写真家、映像作家の方々との懇親会開催
- ④トークショーなどの各種イベントの開催



▲完成作品と記念撮影

名称：第44回関東地区中学生海の絵画コンクール
 開催期間：平成19年7月21日(土)～29日(日)
 開催場所：船の科学館 本館1階 エントランスホール
 主催：社団法人関東海事広報協会、財団法人日本海事広報協会
 後援：国土交通省関東運輸局、国土交通省関東地方整備局、
 海上保安庁第三管区海上保安庁、財団法人帆船日本丸記念財団、
 株式会社日本海事新聞社、財団法人日本海事科学振興財団(船の科学館)
 ※敬称略、順不同

開催内容

関東地方及び山梨県に在住する中学生に、海、船、港などをテーマに絵画を募集し、入賞作品を展示しました。

名 称：研究船で海を学ぼう

開催期間：平成19年7月31日（火）～8月5日（日）〔5泊6日〕

開催場所：静岡県静岡市

主 催：財団法人日本科学協会

共 催：東海大学、日本海洋学会

後 援：文部科学省、国土交通省、農林水産省、静岡県教育委員会、愛知県教育委員会、
東京大学海洋研究所、独立行政法人海洋研究開発機構、毎日新聞社、
読売新聞東京本社、株式会社東京放送、NHK静岡放送局、静岡新聞社、静岡放送、
静岡第一テレビ、テレビ静岡、静岡朝日テレビ、中日新聞社、北海道新聞社、
高知新聞社、海洋政策研究財団、財団法人日本海事科学振興財団（船の科学館）、
財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団、財団法人マリンスポーツ財団、
日本海洋科学振興財団、全海洋動物プランクトンセンサス
※敬称略、順不同

特別協賛：日本財団

内 容

次代を担う優れた高校生を対象に、海洋研究船により海洋実習を通して海洋科学の重要性を示すオピニオンリーダーの養成を目的とした事業に後援しました。

船舶を利用した洋上における各種研修、陸上における採取試料の分析、データの解析及び研修成果の発表などが行われました。

参加者数：79名（高校生64名、一般15名）

▼同展示会ポスター

名 称：商船模型同好会作品展示会

「船の手作り模型展」

開催期間：平成19年8月18日（土）～25日（土）

開催場所：青函連絡船「羊蹄丸」アドミラルホール

主 催：商船模型同好会

協 力：船の科学館

開催内容

①作品展示（展示総数：89隻）

②模型製作の実演

入場者数：1,560名

名 称：船の科学館水ものフェスティバル2007

開催日時：平成19年8月26日（日）

開催場所：船の科学館 3階 ラジコン船プール

主 催：船の科学館水ものフェスティバル実行委員会

協 力：船の科学館

開催内容

ラジコン船プールを使用して、戦艦模型や潜水艦模型による競技会が開催されました。



名 称：講演会「帆船時代の航海術 ～帆船で海、行く？～」

開催期間：平成19年12月2日(日)

開催場所：青函連絡船“羊蹄丸”アドミラルホール

主 催：帆船愛好会Salty Friends (ソルティ・フレンズ)

協 力：船の科学館

開催内容

「帆船の魅力」を多方面から一般の方々に伝え、帆船について興味を持っていただくことを目的に開催しました。

○講演内容

<第一部>「帆船時代の航海術」

<第二部>「チリ海軍練習帆船エスメラルダ見学会レポート」

<第三部>「地中海帆船レース“Med 2007”参加レポート」

参加者数：80名

名 称：艦船模型サークル「ミンダナオ会」展示会

『華麗なるクルーザー・エイジ

～世界の巡洋艦～』

開催期間：平成20年2月9日(土)～11日(月・祝)

開催場所：青函連絡船“羊蹄丸”アドミラルホール

主 催：艦船模型サークル「ミンダナオ会」

協 力：船の科学館

開催内容

世界の海をまたにかけてクルージングする軍艦“巡洋艦”。まさに軍艦の万能選手ともいえる巡洋艦が展示テーマです。

巡洋艦の祖先にあたる帆走フリゲート艦から、列強各国がその精鋭を誇った各形式の巡洋艦、そして今、静かに時代から退場しつつある最後の世代の現用艦等を1/700の洋上模型を中心に展示し、その発達と歴史的意義を視覚的に紹介しました。

入場者数：1,089名

▼同講演会ポスター



船の科学館では、博物館業務に係るボランティアを受け入れて、展示場や読書ルームに配置し、来館者からの質問や展示場の案内などに対応するなど海事科学知識の普及啓蒙活動に努めています。

また、ボランティアによる講演会やガイドツアーなどを定期的に行っていました。

ボランティア団体名

団体名：東友会

旧東海銀行退職者のボランティア団体で、館内の案内業務を主に行っています。

登録者数：9名

延活動人数：259名

団体名：海洋会

旧東京商船大学卒業生の団体で、主に読書ルームを拠点に船舶の専門的な分野の解説や案内を行っています。

登録者数：35名

延活動人数：357名

団体名：ザ・ロープ

木造帆船模型の同好会で、“羊蹄丸”3階の常設展示場で帆船模型を製作しながら模型の解説や製作に関する相談に答えています。

登録者数：21名

延活動人数：99名

団体名：ソルティフレンズ

国内外の帆船で航海を経験したメンバーによる、海洋文化の振興、セイルトレーニングの普及を目的とした団体で、主に展示場内での案内業務を行っています。

登録者数：21名

延活動人数：22名

団体名：“宗谷”ボランティア

南極観測船“宗谷”元乗組員のボランティア団体で、“宗谷”船内を拠点に南極観測時の体験談や“宗谷”についての解説や案内を行っています。

登録者数：8名

延活動人数：92名

その他：上記団体に所属しないボランティア

青函連絡船“羊蹄丸”の解説や案内、海洋教室の補助等を行っています。

登録者数：9名

延活動人数：63名

ボランティアによる催事

名 称：講談「南極第一次観測隊物語」
 開催場所：船の科学館本館1階 エントランスホール
 主 催：船の科学館
 講 談 師：宝井梅星氏
 開催日時及び参加者数

平成19年	4月29日(日)	11名
	5月20日(日)	11名
	6月3日(日)	11名
	9月17日(月・祝)	23名
	11月18日(日)	12名
	12月1日(土)	14名
平成20年	1月13日(日)	40名
	2月10日(日)	15名
	3月29日(土)	21名



▲“宗谷”と宝井梅星氏

開催内容

戦後復興の時代、初代南極観測船“宗谷”が初めて南極に向かうまでの道のり、航海中や南極大陸での苦労と困難、そしてカラフト犬「タロ」「ジロ」救出までの物語を、臨場感溢れる講談でお伝えしました。

参加者数：158名

名 称：海の男のギャラリートーク
 開催場所：船の科学館展示場内
 主 催：船の科学館
 講 演 者：海洋会船の科学館ボランティアグループ
 開催日時及び参加者数：別紙参照
 開催内容

海や船の現場で培ってきた経験談から、展示資料だけでは説明しきれない生の声を通して、より一層船や海への理解を深めてもらうために開催しました。

参加者数：827名



▲展示場内での実施



▲写真資料や模型を用いての解説



▲ロープワークの様子

名 称：海の男のギャラリートーク ～奇跡の船“宗谷”～

開催場所：初代南極観測船“宗谷”船内

主 催：船の科学館

講演者：“宗谷”ボランティア

開催日時及び参加者数：別紙参照

開催内容

“宗谷”と聞いて、まず思い浮かぶのが6回にわたる南極観測船としての活躍。初めての南極観測では、数々の苦難を乗り越え奇跡的な大成功を収めました。

南極観測船だった頃の実体験やエピソードの数々を、当時の乗組員たちが語り部となりお話ししました。“宗谷”保存と南極観測の意義を理解していただくことを目的に開催しました。

参加者数：211名



▲“宗谷”士官食堂内で実施の様子



▲元乗組員が撮影した写真を使っでの説明



▲船倉の特別見学

名 称：ミュージアムツアー

開催場所：船の科学館 本館展示場内

主 催：船の科学館

実 施：東友会ボランティア

開催日時：随時

開催内容

本館展示場内を毎回決まったテーマに沿って分かりやすく解説しました。自由参加なので、途中からでも気軽に参加していただけます。



▲ミュージアムツアーの様子

「海の男のギャラリートーク2007」参加者

(本館)

No.	講演日	曜日	参加者	演 題	講 師	講師肩書	場 所
1	5月19日	土	50	“タイタニック”はなぜ沈んだ	高島 健	元日本海運(株)船舶担当	1階船の歴史 モタニア前
2	5月26日	土	59	帆船“日本丸”の操船方法	橋本 進	帆船“日本丸”元船長	6階海を渡る 帆船日本丸前
3	6月2日	土	40	海難救助の技術・方法	豊村 誠二	元日本サルヴェージ(株)役員	3階読書ルーム
4	6月9日	土	20	船が支える日本の生活	中島 光雄	元運輸省海上技術安全局	2階船がはこぶ
5	6月16日	土	42	大型タンカー“日石丸”の一生	廣瀬 齊	元日本船長協会副会長	1階 日石丸 模型前
6	6月23日	土	22	初心者のためのエンジン教室	山田 淳一	元外国航路船機関長	3階読書ルーム
7	6月30日	土	22	海運の世界あれこれ	江森 健二	元外国航路船船長	3階マリタイムサルーン
8	7月7日	土	28	米国の国家運輸安全委員会の海難調査について	伊藤 喜市	元海難審判理事所長	2階QE2模型前
9	7月14日	土	26	プルトニウム輸送船“あかつき丸”の航海	谷山 洋	元動力炉核燃料開発事業団	2階“東米丸”模型横
10	7月20日	金	56	いま、日本の海は	野間 寅美	元海上保安庁第十管区本部長	2階「にっぽんの海」
11	7月21日	土	22	外航タンカーの機関室	佐藤 勝二郎	元外航航路船機関長	3階読書ルーム
12	7月28日	土	35	乗船中のトラブル	中村 英央	元外国航路船機関長	3階マリタイムサルーン
13	8月4日	土	30	航海の話	早津 義彦	元外国航路船船長	6階ブリッジ
14	8月11日	土	26	実用ロープワーク教室	中澤 一義	元外国航路船機関長	3階読書ルーム前
15	8月18日	土	33	日本の海上保安	野間 寅美	元海上保安庁第十管区本部長	2階海上保安庁コーナー
16	8月19日	日	30	日本の国境	山田 吉彦	日本財団 広報チームリーダー	2階「にっぽんの海」
17	8月25日	土	22	やさしい海の交通ルール	横山 信夫	元外国航路船船長	6階ブリッジ
18	9月1日	土	40	大型タンカー建造に携わって	大村 寿一	元石川島播磨重工業横浜工場工場長	1階日石丸
19	9月8日	土	22	航海術の概要とその歩み	関根 元之	元外国航路船船長	6階ブリッジ
20	9月15日	土	30	ある海難	岡村 勝	元西部海難防止協会理事	3階マリタイムサルーン
21	9月22日	土	25	外航船よもやま話	吉田 藤人	元外国航路船船長	3階マリタイムサルーン前
22	9月29日	土	27	島国日本	安部 勝	元外国航路船機関長	2階「にっぽんの海」
23	10月6日	土	32	日本の海を守る	相田 和男	元海上自衛隊自衛官	2階海を守る
24	10月13日	土	24	帆船“日本丸”の操船方法	橋本 進	帆船“日本丸”元船長	6階海を渡る 帆船日本丸前
25	10月20日	土	42	“タイタニック”はなぜ沈んだ～洋上を駆け巡った無線電信～	高島 健	元日本海運(株)船舶担当	1階船の歴史 モタニア前
26	10月27日	土	22	海國のはなし	新井 典郎	元航空会社航務部長	3階マリタイムサルーン
		計	827				

「海の男のギャラリートーク2007」参加者

(宗谷)

No.	講演日	曜日	参加者	演 題	講 師	講師所属	場 所
1	11月10日	土	34	“宗谷”の生き字引、奇跡と感動の話し数々	三田 安則	第1次から5次 航海科	“宗谷”士官食堂
2	11月17日	土	28	宗谷による観測、寄港地、南氷洋、南極大陸	稲葉 光秋	第6次 航海科	”
3	11月24日	土	31	乗船前の訓練、暴風圏の航海、オビ号の救出	磯貝 重信	第1次から3次 航海科	”
4	12月2日	日	25	船内生活と寄港地での思い出	内山 長徳	第5次・6次 航海科	”
5	12月8日	土	21	宗谷の通信設備、宗谷と基地との通信	佐々木 昭人	第4次から6次 航空科	”
6	12月15日	土	21	砕氷能力の実態、発破作業	滋野 千秋	第5次・6次 航海科	”
7	12月22日	土	21	恐怖の暴風圏、初めての氷山、ソ連「オビ号」	島崎 里司	第4次から6次 航空科	”
8	12月23日	日	30	昭和基地でのテント生活29日	島崎 満雄	第5次・6次 航空科	”
		計	211				

「海の男のギャラリートーク2007」参加者数 34回 1,038名

船の科学館では、社会教育施設などの団体に対して、展示場の案内、場所の提供及び体験教室の開催など各種の協力をを行い、海事科学知識の普及啓蒙活動に努めています。

本年度は例年行っている展示場の案内や体験教室等の他に、各学校施設に出向いての“出前授業”を実施しました。

学 校 名：かえつ有明中学校

開催日時：平成19年9月10日（月）

開催内容

ハンドコンパスを使っての位置特定方法や、元帆船日本丸船長・橋本 進氏をゲスト講師に迎えて「シーマンシップについて」の講義を開催しました。



▲出前授業の様子



▲講義の様子

学 校 名：東京都新宿区立新宿中学校

開催日時：平成20年3月4日（火）

開催内容

プールの水はどうして色が変わってしまうのか、またその色はどこからきているのか等、身近な場所にある科学の謎を学習しました。

実際にプールの水を顕微鏡で観察、色の変わる原因や、その原因はどこからきているのかを全員で議論した後、発表を行いました。



▲プールでプランクトンを採取



▲顕微鏡で観察

船の科学館では、博物館相互の関係を密接にするため、各種博物館活動に参加するとともに類似博物館などとの交流を図りました。

博物館活動への参加

- 平成19年度博物館職員講習
平成19年5月9日(水)～31日(木)
- 平成19年度に御フローティングシップ協会総会
" 7月4日(水)
- 平成19年度みなとの博物館ネットワーク・フォーラム助成審査委員会
" 8月2日(木)
- 第15回サイエンスショーフェスティバル
" 11月4日(日)、5日(月)
- 平成19年度学芸員専門研修アドバンスト・コース〔理工学部門〕
" 11月5日(月)～8日(木)
- 平成19年度みなとの博物館ネットワーク・フォーラムスキルアップ交流会
" 11月15日(木)、16日(金)
- ワークショップ「21世紀型科学教育の創造V」
" 12月8日(土)、9日(日)
- 第7回博物館ボランティア研究協議会
" 12月10日(月)
- みなとの博物館ネットワーク・フォーラム企画委員会
" 12月21日(金)
- 平成19年度全科協海外科学系博物館視察研修〔カナダ及びアメリカ〕
平成20年1月13日～23日



▲オンタリオ・サイエンスセンター



▲カナダ科学技術博物館



▲ロイヤル・ティレル博物館

- 平成19年度博物館指導者研究協議会〔自然史・理工・動水部門〕
平成20年1月24日(木)、25日(金)
- 平成19年度博物館指導者研究協議会〔歴史部門〕
" 2月7日(木)、8日(金)
- 全国科学館職員研修
" 2月18日(月)～20日(水)
- 平成19年度第2回全国科学博物館協議会総会及び第15回研究発表大会
平成20年2月28日(木)、29日

平成19年度、下記の通り国内外からの視察がありました。

来館日時：平成19年4月24日（火）

来館者：中国航海博物館視察訪問団

来館日時：平成19年8月10日（金）

来館者：海上保安庁長官 岩崎貞二
海上保安庁第三管区海上保安本部長 島崎有平
東京海上保安部長 西口政文

来館日時：平成19年10月23日（火）

来館者：台湾高雄市港政府海洋局長

来館日時：平成20年1月25日（金）

来館者：韓国海事博物館建設チーム

来館日時：平成20年2月7日（木）

来館者：国際協力機構 中東地域博物館研修
※敬称略



▲岩崎海上保安長官 視察の様子

資料の収集

船の科学館では、運営母体である(財)日本海事科学振興財団が設立された昭和42年(1967)より、国内を中心に海事資料の収集を行い、平成19年度末現在96,000点を超える資料(展示資料:13,142点、図書資料82,899点)を収集しています。

近年は、滅失、紛失が危惧される造船・海運関係分野における近代産業遺産の資料調査及び収集を主に博物館資料の充実を目指しており、今後も継続的・計画的な資料収集をおこなって行きます。

管理システム

博物館の生命とも言える収蔵資料は、一次資料、二次資料、情報資料などそれぞれの形態・材質に応じ、保存上最も相応しい環境のもとに保存されています。

また、収集した資料は、平成11年より全資料をデータベース化し、貸出・修復歴などを一元的に管理できるようにしています。



資料の公開

データベース化された各資料の内、絵画・海事関係資料の一部をマリタイム サルーン内に設置した端末機から来館者が簡単に検索できるようにしています。また、読書ルーム内に設置した端末機からは、収蔵図書データが検索できるようにしています。



来館者用収蔵資料検索用端末機
本館3階展示場/マリタイム サルーン内
設置台数: 3台



来館者用図書資料検索用端末機
本館3階展示場/読書ルーム内
設置台数: 3台

船の科学館では、来館者への館内施設案内及び展示物の補完資料として、各種パンフレットや印刷物を発行、配布（一部販売）しています。

船の科学館リーフレット



英語版

日本語版

船の科学館大型パンフレット



船の科学館もの知りシート（36種類）
本館展示場内18カ所に設置してあります。

船の科学館資料ガイド



船の科学館 資料ガイド1（羊蹄丸）

船の科学館 資料ガイド2



船の科学館 資料ガイド2（二式大型飛行艇）

船の科学館 資料ガイド3



船の科学館 資料ガイド3（宗谷）



船の科学館 資料ガイド4 (黒船来航)



青函連絡船



船の科学館 資料ガイド5 (新田丸)



日本の船 (和船編)



船の科学館 資料ガイド6 (戦艦 三笠)



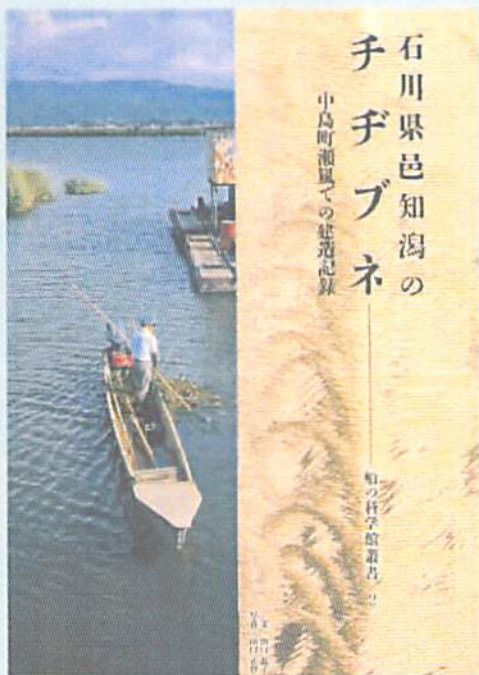
日本の船 (汽船編)



船の科学館叢書 1
重要文化財阿波藩御召鯨船 千山丸



船の科学館叢書 3
対馬のくらしと舟競漕



船の科学館叢書 2
石川県邑知潟のチヂブネ
中島町瀬嵐での建造記録



船の科学館叢書 4
船絵馬入門



海洋教室
体験学習ハンドブック



東京港生きもの
ハンドブック



船の科学館 資料ガイド7 (咸臨丸)



船の科学館叢書 5
雛形からみた弁才船 上

平成19年度出版書籍



船の科学館大型パンフレット

船の科学館リーフレット



韓国語版

中国語版

英語版



▲「にっぽんの海」コーナー
子ども用リーフレット

船の科学館では、総合的学習などへの対応施設として、海事関係図書資料が閲覧できる読書ルームや参加体験学習専用棧橋のほか、来館者へのサービス施設として、2つのレストランと4つの多目的ホールやミュージアムショップ、屋外プールなどの施設を設けています。

読書ルーム

本館/3階

海事資料の閲覧をはじめ、生涯学習や総合的学習の時間に対応したレファレンスルームとしても活用しています。



シーサイドレストラン「海王」

本館/4階：200席（340㎡）

東京港と大東京を眺めながら、豪華客船のダイニングルームの雰囲気でお食事とお飲物をお楽しみいただけます。



参加体験学習専用棧橋

屋外/羊蹄丸船尾

各種船舶の体験学習や東京港をフィールドとした海洋教室などで活用しています。



ベイサイドテラス「キャビン」

屋外/船の科学館船尾

カリフォルニアテイストのテラスで、海を眺めながら、軽食がお楽しみいただけます。



オーロラ ホール

本館/1階：450席（310㎡）

映写設備も完備した多目的ホールです。音響効果もよく、各種の教育活動、講演会などに幅広くご利用いただけます。

マリン ホール

本館/4階：600席（590㎡）

広々とした室内に最新の音響設備も整い、大きな会合、セミナー、パーティーと様々な目的で多彩にご利用いただけます。

ホール マーメイド

本館/5階：300席（320㎡）

窓いっぱいに見える東京港の中で、会議や会合などにご利用いただけます。



アドミラル ホール

羊蹄丸/船内

展示会やセミナーなど、多目的に利用できるホールです。大型木造船の内部構造をイメージした内装が、落ち着いた雰囲気を漂わせています。



マリンショップ

屋外/本館海側玄関前

船の科学館出版物をはじめ、海事関係図書やマリングッズなどバラエティーに富んだ品々をご用意しています。



プール

船の科学館「シーサイド・プール」には、一周約200mの流れるプールと、ウォータースライダーのあるこどもプールの2つがあります。

夏期のプール営業期間外は、エンジン付ゴムボートやシーカヤックの体験教室をはじめ、スノーケリング教室等も開催しています。

